

4 フユザンショウ台によるアサクラサンショウの枯死低減

ねらいと成果

アサクラサンショウは実サンショウとして県内では但馬・丹波地域で主に生産され、嗜好の多様化によって近年需要が増大している。このため中山間地における地域特産物として取り組む地域がみられるものの、植栽後5～6年以内に枯死する樹が多く問題となっている。

北部農技センターでは、アサクラサンショウの枯死原因が、夏期の好天による土壌の乾燥後、秋雨によって地下水位が上昇することによる湿害であることを明らかにしてきた。そこで、地下水位の変動に強く、湿害を受けにくい台木について検討したところ、フユザンショウ台により枯死率の低減がはかれることが明らかとなった。

内容

1 浸漬処理による各種台木の耐湿性の比較

台木の耐湿性を比較するために、一般にアサクラサンショウの台木として用いられているヤマザンショウと一部産地で用いられているイヌザンショウ、さらにヤマザンショウと同じ属であるフユザンショウについて浸漬処理をおこなった。その結果、いずれの台木とも根の褐変については大きな差はみられなかったが、落葉はフユザンショウが最も少なく、耐湿性が高いものと考えられた。

2 フユザンショウ台のほ場における耐湿性

フユザンショウのほ場における耐湿性を調査する

表1 浸漬処理による各種サンショウの落葉程度

種 類	処 理 後 日 数 (日)				
	0	3	6	10	12
フユザンショウ	—	—	—	—~+	+
イヌザンショウ	++~+++	++~+++	++~+++	+++	+++~×
ヤマザンショウ	++	+++	+++	×	×

注) 落葉率：—(0%)、+(20%程度)、++(50%程度)、+++ (70%程度) ×(90%以上)、処理方法：平成10年9月18日にほ場より2年生苗木を掘り上げ、水を入れたバケツに根部を浸漬した。

表2 各種台木の接ぎ木活着率(1年目)と接ぎ木2年後の新梢生長

台 木	接ぎ木活着率	総新梢長	節 数
フユザンショウ	82.4%	175.0cm	155.6節
ヤマザンショウ	83.7	125.7	93.0

注) 穂木：アサクラサンショウ

ため、5月下旬にはほ場全体を3時間程度湛水状態にした。その結果、フユザンショウ台では全く枯死しなかったものの、ヤマザンショウ台では99.5%の接ぎ木苗が枯死し、フユザンショウ台がほ場レベルでも湿害にかなり強いことが示された。

3 フユザンショウ台木の接ぎ木親和性と新梢生長

アサクラサンショウに対するフユザンショウの接ぎ木親和性と接ぎ木後の新梢の生長について調査した。接ぎ木活着率は、両台木ともほぼ同程度であった。接ぎ木後1年目の新梢長はフユザンショウ台でやや劣ったが、2年目ではフユザンショウ台の方が長く、ヤマザンショウ台よりも強い樹勢を示した。

4 フユザンショウ台の枯死低減効果

フユザンショウ台とヤマザンショウ台の1年生苗木を降雨後の地下水位が高く、枯死が多くみられる当センター内のほ場に植え付けた。植え付け1年後の枯死率はヤマザンショウ台で約80%であり、植え付け2年後では、ヤマザンショウ台で残りの個体が全て枯死したのに対し、フユザンショウ台は全く枯死しなかった。

今後の方針

フユザンショウ台の苗木生産の拡大を図るため、普及センターと協力し取り組んでいるところである。

松浦 克彦 (北部農技・農業部)

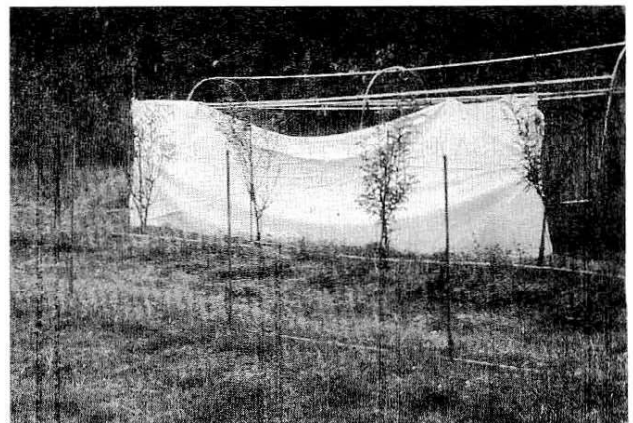


図 フユザンショウ台によるアサクラサンショウの枯死低減状況 (手前：ヤマザンショウ台、奥：フユザンショウ台)